

令和 6 年度事業評価

1. 適性ある学生の定員確保

募集活動については、㉔SNS を活用した教育活動の紹介、㉕学校説明会、㉖高校訪問、㉗ポスター配布等、多角的な募集活動を行った。

㉔についてはホームページから学生作成の TikTok や卒業生メッセージを配信し、多くの閲覧回数を得た。㉕については申し込みのデジタル化を行い、学生によるパネルディスカッションや体験コーナーを取り入れ、㉖については高校の進路指導教員と看護教育の実際について具体的な懇談を行った。㉗については学生の提案や時代を取り入れたデザイン等の変更につとめた。しかしながら人口減の影響は強く、募集数は微増にとどまった。

また、入学選考についてはここ数年、限界まで合格水準を下げて定員確保につとめたが、低学力化は国家試験の合格率を直撃した。そのため、今年度は一定の成績水準を維持して選考した。

今後も続く 19 歳の人口減少に向けて、質的量的な二側面をどのように調整していくか、検討を開始した。(5. 学校の将来構想参照)

2. 教育目標の実現

新カリキュラムの完成年度を迎え、㉘臨床判断能力の強化、㉙地域包括ケアに向けた運動の強化、㉚多職種連携とチーム医療演習の安定した運営が行われた。

一方で、低学力者への対策として学習支援を行ったが効果は限定的であった。コロナ期における高校時代の学習体験の少なさも一因と考えられるが、学力の積み上げを本学の修業期間で実現するには限界がある。

3. 学習効果を高める環境づくり

ICT 化への環境づくりについては、全館の Wi-Fi 導入が行われ、遠隔授業や動画教材を中心とした授業の利便性が拡大した。書籍については電子化への社会的動きをふまえ、移行を視野に学生に理解しやすいテキストの変更を行った。

心理的学習環境づくりでは、ピアサポートを中心とした支援体制が機能した。重要な問題を抱えた学生に対しては早期から保護者・保証人との連携や医療介入への指導など適切な対応が行われた。今後もきめ細やかな対策を講じていく。

4. 地域に向けた看護実践者の輩出

看護師国家試験は 74 人が受験し 65 人が合格、合格率 87.8%でほぼ全国水準を維持することができた。准看護師資格試験は 15 人が受験し全員が合格した。なお、看護師国家試験の不合格者も全員が准看護師資格を取得している。

就職については、県内就職者が 9 割であり、民間施設と公立施設はほぼ同比率であった。地域医療への貢献という所期の目的は達成されている。

5. 学校の将来構想

学校経営については令和 2 年度から経営改善に取り組み、一時的に経営状況が上向いたが、学生数の減少に歯止めがかからず、令和 5 年度以降、再び経営状況が悪化している。

今後、さらに学生数の減少が続いた場合は、学科改変について検討していく。

まずは、最も 19 歳人口の影響をうける看護第 1 学科の定員数の削減を考える。

准看護学科については、社会状況の変化があっても一定数の希望者がみられ、これと連動している看護第 2 科を含めた学生の全体比率（実数で算出）は現在約 3 割を占めていること、社会人は社会経験を経ていることから定着率が高く看護師不足解消の一助となっていること、さらに生涯学習の場としての社会的意義があることなどから、准看護学科を存続させる方向で検討を開始している。